



お台場学園だより

令和8年7月号
港区立小中一貫教育校
お台場学園
〒135-0091 港区台場 1-1-5
小学校 03-5500-2572
中学校 03-5500-2575

AIとともに学ぶ時代へ

校長 吉野達雄

近年、AI（人工知能）は私たちの生活のさまざまな場面に入り込み、日常に欠かせない存在となってきました。知りたいことをすぐに調べたり、文章を作成したり、翻訳や画像の作成まで行ったりと、その便利さは年々増えています。これから先もAIはさらに進化し、私たちの生活や仕事、そして教育の場にも深く関わっていくことは間違いありません。

その一方で、「AIが何でもやってくれるようになれば、自分で考える力が育たなくなるのではないか」「子どもたちがAIに頼りすぎてしまうのではないか」と心配する声もあります。確かに、AIに答えだけを求め、自分で考えることをやめてしまえば、本当の学びにはつながりません。そこで大切になるのは、「AIを使うか、使わないか」ではなく、「どのように使うか」という視点です。AIは子どもたちの思考に代わるものではなく、思考を深め、学びを支える道具として活用することが重要です。この考え方は、本校独自のものではありません。文部科学省や東京都教育委員会も、生成AIを学校教育から排除するのではなく、「適切に活用しながら、子どもたちの主体的な学びや思考力、判断力、表現力を育てること」が重要であると示しています。AIを正しく活用する力そのものが、これからの社会を生きる子どもたちに必要な資質・能力の一つであると考えられています。

<お台場学園として>

先日、9年生の授業で、生徒がAIの活用について発表する場面がありました。その中で、ある生徒は次のような考えを述べました。

「作文を書くとき、テーマと内容を入力すればAIが文章を書いてくれる。しかし、それでは自分の思考力や表現力は育たない。一方で、まずは自分の力で作文を書き、その後AIに添削や助言をしてもらえば、自分では気付かなかった表現や文章の組み立てを学ぶことができ、書く力や論理的に考える力を伸ばすことにつながる。」

私は、この発表に大きな可能性を感じました。AIに「考えてもらう」のではなく、「考えたことをよりよくするために使う」という姿勢こそが、これからの時代に求められる学び方だからです。学校で育てたいのは、単に知識を覚える力ではありません。自ら考え、判断し、表現し、よりよい答えを探していく力です。AIが発達する社会だからこそ、人にしかできない「考える力」「創造する力」「対話する力」の価値は、これまで以上に高まっていきます。

本校でも、国や東京都の方針を踏まえながら、AIを無条件に取り入れるのではなく、教育的な価値を十分に考えた上で活用を進めてまいります。子どもたちがAIを賢く使いこなし、自ら学び続ける力を育てられるよう、授業づくりを工夫していきます。AIとともに生きる時代を迎えた今だからこそ、「AIに任せる子ども」ではなく、「AIを活用して自ら学び続ける子ども」を育てていきたいと考えています。

一方で、どれほどAIが進化しても、子どもたち自身が自分の目で見て、耳で聞き、仲間と語り合い、実際に体験しながら考え抜く経験は、決してAIに代わるものではありません。驚きや感動、失敗や成功を通して得られる学びこそが、子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育みます。AIは便利な道具ですが、学びの主役はあくまでも子どもたちです。本校では、AIを適切に活用しながらも、「自分の目で見て、体験し、自分の頭で考え抜く」学びを何よりも大切にまいります。保護者の皆様にも、本校の教育へのご理解とご協力をお願いいたします。

図書委員会より

図書委員会では、児童、生徒が協力し合い常時活動に取り組んでいます。常時活動では、カウンター当番、書架の整理、図書ゾーンの見回りなどに取り組んでいます。小学校は6月29日（月）～7月10日（金）、中学校は7月6日（月）～7月16日（木）が読書週間です。小学校図書委員会では、期間中に本を借りた児童に自分たちで作成したしおりを配布します。中学校図書委員会では、図書だよりの発行、小学生への読み聞かせを行います。本に親しむきっかけ作りに取り組んでいきます。7月13日（月）からは、夏休みに向けて図書の貸し出しが始まります。今年度は、一人3冊まで借りられます。夏休みも図書に触れ、楽しんでもらいたいと考えています。

(図書委員会 【小】竹ヶ鼻涼音、根平公美子、宮本綾花 【中】安藤美和)

特別支援教育コーディネーターより

小・中学校では、特別支援教室「そよかぜ教室」を開室しています。特別支援教室とは、生活面や学習面での困難を克服・改善するための指導を行うために設けられた教室です。また、通常の学級の教室内での一斉指導において、苦手な部分を補うために、個別的に支援を行うスペシャルニーズアシスタント（SNA）を配置しています。現在、これらの支援を受けておらず、今後特別支援教室への通級あるいは、スペシャルニーズアシスタント（SNA）の配置を希望される保護者の方は、7月10日（金）までに、担任、特別支援教育コーディネーター、または副校長にご相談ください。

(特別支援教育コーディネーター 小学校：梨澤・中西 中学校：川上)

【6月 ふれあい月間の取り組みについて】

港区では、いじめ、自殺、暴力行為等の問題行動、不登校等の早期発見・早期対応、未然防止等につながる取り組みを推進しております。年3回(6・11・2月)のふれあい(いじめ防止強化)月間を実施しています。本校では以下のような取り組みを行っております。

- ① 「あいさつ運動」
小学校代表委員会・中学校生徒会が中心となり、登校してくる児童・生徒へ挨拶をしました。
- ② 「ふれあい月間標語」 各学級で話し合いをし、実態に合った標語を決め、各教室前に掲示します。
また小学校では給食の時間に標語を発表し合い、各学級の取り組みを共有しました。
- ③ 「いじめ防止授業」の実施
刷新された「いじめ総合対策[児童版]」等を利用し、道徳や学級活動の授業でいじめをなくすために必要なことを考える学習をしました。

生活指導主任【小】今井健太郎 【中】山本一之

愛があふれる学校から シンガポールへ

今年で3年目を迎えたシンガポール修学旅行は、3泊5日の日程で実施され、新宮弘章教育長ならびに大久保和彦教育人事企画課長にもご同行いただきました。現地ではシンガポール大学の学生との「イングリッシュチャレンジプログラム」に参加し、英語が通じるか不安もありましたが、実際には積極的にコミュニケーションを図ることができ、生徒たちにとって大きな自信となりました。また、水族館のバックヤード見学やユニバーサル・スタジオ・シンガポールでの体験、大学生との交流会など、多彩なプログラムを通して視野を広げる貴重な機会となりました。終始充実した時間を過ごし、学びの多い有意義な修学旅行となりました。

そして、何より生徒たちが最も喜んでしたのは、大好きな吉野達雄先生を5日間 独占できたことです！

9学年主任 青葉朋信



【7・8月の主な行事】

1日(火)	読書週間～10日(金)	22日(水)	夏季港陽タイム(中学校)～23日
7日(火)	避難訓練 職場体験始(8年)～9日(木)	29日(水)	夏季学園前検診(5年)
15日(水)	夏季学園事前検診	30日(木)	夏季学園(5年)～31日(金)
16日(木)	給食終 終業式	8月25日(火)	夏季水泳(小学校)～27日(木) 夏季水泳(中学校)～27日(木)
17日(金)	お台場子供プラージュ	8月26日(水)	夏季港陽タイム(中学校)～27日
21日(火)	夏季休業始 夏季学園(8年)～23日(木) 個人面談(小学校)～27日(月) 夏季水泳(小学校)～29日(水) 三者面談(中学校)～27日(月) 三者面談(8年)～30日(木)	8月31日(月)	夏季休業日終
		9月1日(火)	始業式 引き渡し訓練

【スクールカウンセラー 相談曜日】 【スクールソーシャルワーカー 相談曜日】

○安間 明子 毎週 火曜日 小学校担当
○山田 早苗 毎週 月曜日 中学校担当
○吉原 道代 毎週 金曜日 小・中学校担当
電話連絡先 ●小学校 03-5500-2572 ●中学校 03-5500-2575



お台場学園のXのQRコードです。
ぜひフォローしてください。
〈フォロー数 617人(6/30 現在)〉